

臨床實驗

想像妊娠の一例

土肥婦人科病院(大阪市北區曾根崎上四丁目一八)

外 川 一 子
ト ガハ カヅ コ

一 緒 言

想像妊娠と云ふ言葉は吾人の甚だよく耳にする處なるも、今試みに文獻を繙くに、遠く西紀前三世紀の頃 Indrust 氏が報告せし以來、西歐に於ては既に其の幾百例なるを知らず。而るに我國に在りては、事實その實例多からんも未だに十數例の報告を見るに過ぎず。依て敢て此一例を報告せんとす。

二 實 驗 例

患者池邊シ〇子。三十九歳(八月生)鑄物師の妻

既往症 遺傳的に特記す可きものを認めず。生來健康にして著患を認めず。月經は、十三歳にして初經を見し以來定期的に、且つ二日乃至三日の特續日數を以て發來し腰痛等を覚えし事なし。二十八歳にして健康なる一男子(現在の夫)と結婚し、今日に及ぶも未だ嘗て妊娠せし事なし、爲に本人をはじめ家人舉つて妊娠を渴望せり。患者自身何等妊娠、分娩を恐怖するに非ざりし事勿論なり。

現在病歴 昭和十一年五月三十一日より二日間、通常の如くに月經を見たるまい、以來全く月經を見ず、軽度の「ツハリ」様の症狀あり、嘔吐等は見ざるも、同年八月某醫を訪づれ、診察を乞ひしに、こは妊娠なり同年十二月には分娩を見る可しと云はる。而るに本年に入れども更に分娩の徴なし。ついで本年二月上旬よく胎動を感じ同時に初乳の分泌せらるゝを見るに至る。最近某産科醫を訪れたるに、こは妊娠に非ず、腹水あるを以て手術を要すと稱せられ、更に某女醫を訪れたるに卵巢囊腫なり、開腹術を要すと稱せられたり。又之を受持てる二人の産婆は、何れも腹部は臨月以上に達し胎動を觸れ得るも、未だ嘗て胎兒心音を聴取し得たる事なし。依て直ちに吾人のもとに同道せしもの也。

現症 患者は體格上等、榮養又佳良にして肥満す。問診するに、精神状態は正常なるものゝ如く、神経系統の亢奮等を認めず。皮膚粘膜に貧血なく、脈搏正調にして、肺臓、心臓共に異常を認めず。

乳房は良く發育し稍弛緩せるも乳量の着色を認め、且つ初乳の分泌せらるゝを見る、腹部は甚しく膨滿緊張し、子宮の境界不明にして、打診するに、一般に濁音を呈し、たゞ左右の側腹部に鼓音を示すのみにして、位置の轉換に依りて濁音に變化なく、又波動を認めず。更に、胎兒心音、子宮血管雜音を聴取するを得ざるも、胎動様搐搦を認め且つ觸知す。外陰部は正常に發達し陰毛の發生中等度、處女膜は斷裂し、尿道又異常を見ず。子宮は通常の大さ（子宮腔の長さ七糎）硬度尋常にして前屈、可動性にして壓痛なし。附屬器は兩側共に觸知する能はずして、卵巣囊腫の如きものなし。子宮口は圓形にして小、子宮腔部に着色を見る事なし。依て再び患者を仰臥せしめて觸診するに、胎動様の搐搦は一層著明となり、觸診時にあたり腹壁は一層緊張し、聴診器をあつれば益々著明の搐搦を現し、而らざる時は搐搦を減じ、觸診聴診等によりて注意を喚起したる時に於てのみ著明なるを覺ゆ。

三 診 斷

前記の症狀により想像妊娠なる診斷を下し、其の妊娠に非ざる事を詳しく説明したるに、患者は甚しく失望し、産婆はその疑惑を氷解し得て歸途につけり。

四 考 按

今試みに從來想像妊娠として文獻に現はれたる徴候、並に其の原因に就て聊か詳述すれば左の如し。

徴 候

1. 種々の自覺症狀 惡心、嘔氣、嗜好物の變化等所謂「ツハリ」症狀は殆んど總ての場合に之を訴ふるものゝ如く、本患者に於ても亦輕度ながら「ツハリ」症狀を覺えたりと云ふ。

2. 月經閉止 之れ又殆んど毎常見る處の症狀なり、無月經の原因は甚だ多く、他の原因によつて一度び月經閉止するや妊娠を想像する基となる場合多きが如し、本患者には特に月經閉止の原因となるべき他に疾患なくして、閉止せるものと認むべし。

3. 腹部膨滿 主として皮下脂肪の沈着過多によるもの多く、更に鼓腸、並に種々の腹腔内に於ける腫瘤、腹水等その原因として擧げらるれども、本患者には鼓腸症狀な

く、腹壁は緊張して濁音を呈し、又腫瘍、腹水等を見ず。腹部膨滿の度甚しかりしは全く皮下脂肪の沈着と、故意に腹壁を緊滿せしめたるによるものと認む可し。何となれば深く呼氣を續けしめ、或は意識を他に轉換せしむる事により、濁音は消失し、此際腹壁は弛緩せるを見るが故なり。

4. 乳房の膨大 殆ど總ての場合に現はるゝ症狀にして、本患者に在りても又その例に漏れず。殊に本患者に於ては醫師より妊娠と云はれ、喜びの餘り、常に乳房を器械的に刺激し、遂に其の膨大を來せしものゝ如し。

5. 乳汁分泌、乳汁分泌を見る事ありと云はるゝも稀にして、殊に本邦にては此の報告少なし、鈴木氏の四例中に一例、勝氏に一例を見るに過ぎざるが如し。而れども本患者に在りては其の甚だ著明なるを覺えたり。

6. 胎動運動 腸の蠕動運動、腸間膜の移動又は横隔膜の收縮を幻覺するもの多しとせられ、ホフステツテル(Hofstätter)氏は直腹筋の收縮を、クラムマツヘル(Kramacher)氏は腹筋の搐搦を幻覺せる例を報告せり。本患者も亦、直腹筋の搐搦を以て胎動なりと錯覺せるものにして、觸診、聽診に際してのみ著明に現はれ、然らざる時は全く止むか、或は大に減弱せるを以て證す可し。

7. 妊 娠 線

勝氏は新妊娠線のある一例を報告せられしも、本患者に於ては之を見るを得ざりき。

8. 陣 痛 様 發 作

屢々陣痛様發作を見る事ありと云はるゝも、本患者は殆んど持續的に腹部の緊滿を訴へたるのみにして陣痛様の發作を見ざりき。

原 因

一般に神經質の婦人は妄想に囚はれ易く、此の精神的素因がその原因をなすと考へられ、殊に想像妊娠を招來するものとしては凡そ次の數種に類別し得るを得べし。

1. 子供を熱望する結果によるもの多くして、勝氏、中山氏、鈴木氏の報告並に本例等をはじめ其の例甚だ多し。

2. 妊娠を恐怖するの餘り想像妊娠を來すもの又相當多く、かの歐洲大戰時夫の出征中に妊娠する事を恐るゝ餘り、想像妊娠を來せる例の如かりしは世人のよく知る處なり。

3. 更に交接の結果を餘りにも過信する爲に想像妊娠を來す事ありて、中山氏、鈴木氏の報告せられしはこの好例なる可し。

4. 更に又中山氏、勝氏の例の如く妊娠を充分に識れる經産婦或は産婆等にして、

自身にその症状を期待せるものにも往々本症を現はす事あり。但し本患者は未産婦にして妊娠症状を識らず、又妊娠症状を他より説明せられたる事なしと云ふ。

5. 醫師又は産婆の誤診に起因するもの其の例甚だ多く、中島氏、鈴木氏の例並に本例等をはじめ、或は子宮筋腫を、或は卵巣囊腫を、或は子宮血腫を、或は子宮後屈症を、其他種々の疾病を妊娠なりと誤診せる例枚舉にいとま非ず。

五 結 論

之を要するに本患者は妊娠を渴望せる際偶然不明の原因によつて月經閉止し、最初の醫師の誤診によつて妊娠せるものと信じ、喜びの餘り前述の諸症状を呈し、遂には腹筋の搐搦をさへ半反射的になす迄に至りしものと思考するを得べし。

参考とせる主なる文献

- Halban Seitz III S 944 鈴木喜代治 近畿婦人科學會雜誌 第一卷第二號 289
 中山貞治 近畿婦人科學會雜誌 第六卷第四號 202 勝慶徳 近畿婦人科學會雜誌 第十卷第二號 132
 中村宇一 近畿婦人科學會雜誌 第十六卷第五號 297 河田豊 産科と婦人科 第二卷第三號 253
 中島精, 小泉伸策 産科と婦人科 第三卷第十一號 7
 高敬造 診断と治療 第二十三卷第九號 1330 以下省略。